

「生涯の大好き&見方を変えて」

先週の体育発表会は大成功でした。スローガンにあった「一致団結、心を一つに」して踊ったダンスや踊りはどの学年も最高の出来栄でした。特に、「最後の」という気持ちで踊った力強い6年生のソーラン節は、下学年の人たちの大きな目標になったと思います。次につながるソーラン節でした。

できなかったことが努力でできるようになる。同じ目的に向かって協力することで、仲間との絆が強まる。どちらも素敵です。体育発表会での経験をこれからの生活に生かして実りある秋にしましょう。

さて、今日も二つお話をします。一つ目は、体育発表会の体育に困んだお話です。生涯体育という言葉があります。「一生、何かしらの運動をすることで、人生を楽しく豊かに、健康に過ごそうという取組」です。校長先生の場合は生涯、サッカーです。実は、発表会の次の日もサッカーの試合がありました。勝てば優勝の可能性のある試合で、体育発表会のあった夜ですので、ラインで、「一致団結、心を一つに」の言葉をチームメイトに送り、みんなで勝利を目指しました。結果は…、2対0で見事勝利しました。校長先生も先制のシュートを決めました。しかし、ライバルチームも勝利したため、わずかな差で2位となり、優勝はできませんでした。私はサッカーが大好きです。その大好きを今もできるのは幸せですしサッカーが宝物です。サッカーを通じてできた仲間も宝物です。みなさんにもぜひ、体育に限らず、一生ものの「大好き」に出会ってほしいです。生涯音楽でも、生涯図工でも、生涯ゲームだっていいと思います。今、そんな大好きがありますか。その大好きが将来の宝物になるかもしれません。自分の「大好き」を大切にしてください。

もう一つ、今度は図工に困んだお話です。ピカソという有名な画家を知っていますか。20世紀最大の芸術家といわれるピカソの、まずは、この絵を見てください。この絵を見てどう思いましたか。へたくそ、と思った人がいるかもしれません。ピカソはへたくそなのでしょうか。今度はこちらの絵を見てください。同じく、ピカソが描いた絵です。どうですか。人物が本物のように描かれていて、とても上手です。こちらはピカソが15歳の時に描いたもの。そしてはじめの絵は26歳の時の作品です。ピカソはなぜこのような絵を描くようになったのでしょうか。

そこには、ピカソなりの物の見方があると言われています。ピカソは見えている一つの方向からだけで描くのではなく、別の方向からの姿も一緒に描こうとしました。見る角度によって見えるものは違って、それを一つの画面に重ねて描くことで、本物の世界を描くことができると考えたのです。これは、ピカソが長いこと本物の姿を描きたいと考えてきた末にたどり着いた世界です。

こちらは、46歳の時に描いた「*****」という絵です。少女と鏡に映った少女の姿は違います。人のもついろいろな面を表しているのでしょうか。

さて、みなさん。10月は体育発表会を通して、今まで見えていなかった自分や友達のよい面を見つけた人はいませんか。みなさんは誰もが、気付いていない良さをもっています。これから取り組む学習発表会や勉強・生活では、いつもと見方を変えて、自分や友達を見てみませんか。新しい自分、新しい友達を発見できるかもしれません。

今日は、「生涯の大好きを大切に」そして、「見方を変えて」というお話でした。

